Ⅱ．「B 型事業所企業合同見学・説明会」の実施報告

１．「Ｂ型事業所企業合同見学・説明会」の実施状況および参加者の概要 16
２． Ｂ型事業所合同企業見学・説明会の効果検証 18
２－１．見学・説明会についての参加者の感想 18
２－２．一般就労への「意欲」と「自信」≪見学会当日≫ 20
２－３．一般就労への「意欲」と「自信」≪追跡調査≫ 25

１．「Ｂ型事業所企業合同見学・説明会」の実施状況および参加者の概要

１）見学・説明会の実施状況

Ｂ型事業所企業合同見学・説明会（以下、見学・説明会）では、企業に出向いて、職場を見学し、仕事内容の説明を受けた。全県を 8 ブロックに分け、昼食をはさんで 3～4 企業を見学できるスケジュールとした。ただし、周南・下松圏域については見学企業の都合により 3 日に分けて実施した。1 企業当たりの見学時間は約 1 時間とした。

見学先は、現在すでに障がい者を雇用している企業を中心に、可能な限り、業種や仕事内容が異なる企業を組み合わせた。

圏　域	日　程	参　加　者				見　学　先	
		事業所数	本人（人数）	支援者（人数）	家族等（人数）	企業名	業種
柳井圏域	10月10日	2	4	3	0	特別養護老人ホーム　伊保庄園	社会福祉
						柳井化学工業株式会社 柳井工場	化学工業
						あさひ製菓 株式会社	食料品製造
						株式会社アデリー	卸売業
岩国圏域	10月18日	2	10	3	0	特別養護老人ホーム　灘海園	社会福祉
						株式会社 エヌ・エス・サービス	リネンサプライ
						株式会社カワトＴ.Ｐ.Ｃ.	非鉄金属製造
周南・下松圏域	10月23日 10月28日 11月 5日	4	8	3	3	株式会社 トクヤマ	化学工業
						出光興産株式会社徳山事業所	石油製品製造
						徳山積水工業株式会社	化学工業
						株式会社 シマヤ	食品製造業
宇部・山陽小野田圏域	10月29日	3	4	3	1	有限会社リベルタス興産	印刷関連業
						ＴＨＫ株式会社山口工場	機械器具製造
						社会福祉法人　アスワン山荘	社会福祉
防府圏域	10月30日	3	6	3	0	障害者支援施設　華の浦	社会福祉
						西日本三桜株式会社山口工場	輸送用機械器具製造業
						株式会社 丸久	商品小売業
山口圏域	10月31日	3	5	3	0	シモハナ物流　株式会社	貨物運送業
						芦森工業山口　株式会社	輸送用機械器具製造業
						テルモ山口 株式会社	精密機械器具製造業
萩・長門圏域	11月6日	2	3	2	0	フジミツ 株式会社	食料品製造
						瀬戸内部品 株式会社	輸送用機械器具製造業
						ヤマネ鉄工建設 株式会社	鉄鋼業
下関圏域	11月15日	3	9	4	1	株式会社　日本セレモニー	サービス業
						極東ファディ株式会社　下関加工センター	食料品製造
						ＪＲＣＳ株式会社　豊浦事業所	精密機械器具製造業
合計		22	49	24	5	26企業	

２）見学・説明会の参加者の概要

年齢および性別

年齢	最高	55歳
	最低	18歳
	平均	31.3歳

性別	男性	31人
	女性	16人

就労継続支援 B 型事業を使っている期間

在籍年数	最高	16年
	最低	1年
	平均	4.1年

障害者手帳の所持

障害者手帳を所持している	43人	91.5%
障害者手帳を所持していない	4人	8.5%

身体障害者手帳	2人	4.7%
療育手帳	26人	60.5%
精神保健福祉手帳	17人	39.5%

1級：1人
6級：1人

A判定：2人
B判定：24人

1級：1人
2級：11人
3級：5人

障害年金の受給

障害年金を受給している	25人	53.2%
障害年金を受給していない	22人	46.8%

障害基礎年金	25人
障害厚生年金	0人

1級：3人
2級：22人

２．Ｂ型事業所合同企業見学・説明会の効果検証

２－１．見学・説明会についての参加者の感想

見学・説明会終了後に、参加者（本人・支援者）を対象にアンケート調査を実施した。自分で回答・記入が困難な場合には、調査員もしくは支援員が聞き取りを行って、代わりに記入した。調査票の配布および回収数、回収率は以下のとおりである。

≪本人≫
配布数：48 人
回収数：48 人
回収率：100%
※　見学・説明会への参加者は 49 人だが、1 人が早退したため、配布は 48 人。
※　一部に未記入個所があるため、有効回答数は設問によって異なる。

≪支援者≫
配布数：24 人
回収数：22 人
回収率：91.6%
※　一部に未記入個所があるため、有効回答数は設問によって異なる。

１）参加した本人の感想等

①　見学会に参加して、一般就労や企業へのイメージに変化がありましたか？
あなたの気持ちに一番近い項目に〇をつけてください。

	変化があった	どちらかといえば変化があった	どちらかといえば変化がなかった	変化がなかった	有効回答
人	13	20	7	6	46
%	28.3%	43.5%	15.2%	13.0%	100.0%

②　見学会に参加して良かったですか？
あなたの気持ちに一番近い項目に〇をつけてください。

	良かった	どちらかといえば良かった	どちらかといえば良くなかった	良くなかった	有効回答
人	31	15	0	0	46
%	67.4%	32.6%	0.0%	0.0%	100.0%

２）参加した支援者の感想等

① 見学会に参加して、障害者の一般就労に対する、あなた自身の心境や意識に変化がありましたか？あなたの気持ちに一番近い項目に〇をつけてください。

	変化があった	どちらかといえば変化があった	どちらかといえば変化がなかった	変化がなかった	有効回答
人	5	12	1	1	19
%	26.3%	63.2%	5.3%	5.3%	100.0%

② 見学会に参加して、支援者として新たに知り得たことはありましたか？
あなたの気持ちに一番近い項目に〇をつけてください。

	あった	なかった	有効回答
人	18	2	20
%	90.0%	10.0%	100.0%

③ 見学会に参加して良かったですか？
あなたの気持ちに一番近い項目に〇をつけてください。

	良かった	どちらかといえば良かった	どちらかといえば良くなかった	良くなかった	有効回答
人	15	5	0	0	20
%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%

２－２．一般就労への「意欲」と「自信」≪見学会当日≫

効果検証の方法（考え方）

①　本人への調査

調査は、引率した支援員もしくは調査員が面談で行った。「一般就労したいですか？」「一般就労する自信がありますか？」と問いかけ、質問紙に示したスケールで回答を求めた。スケールは、左に「したい」（もしくは「自信がある」）、中央に「どちらともいえない」、右に「したくない」（もしくは「自信がない」）を置き、左右に 5 段階の目盛りを振って、今がどのレベルか選択してもらった。

この方法を選択した理由は、「とても思う」「少し思う」といった言語での表現が苦手な利用者がいるためである。視覚的なスケールにすることで、自分の気持ちを表現しやすいのではないかと考えて採用した。

分析では便宜上、「+5」～「0」～「-5」に置き換えて行った。ただし、これらは間隔尺度ではなく、数値はあまり重視していない。

②　支援員への調査

引率した支援員に、支援者から見て、どのくらい「一般就労したい」と思っていそうか、あるいは、「一般就労できる可能性がどのくらいあるか」という評価を、本人同様に「+5」～「0」～「-5」で選択してもらった。

③　分析の視点

各指標のギャップに着目して分析を行った。具体的には、本人の「意欲」と「自信」の関係、本人が自覚している「意欲」と支援者が認識している「意欲」との関係、本人が自覚している「自信」と支援者が評価する「可能性」との関係を分析する。

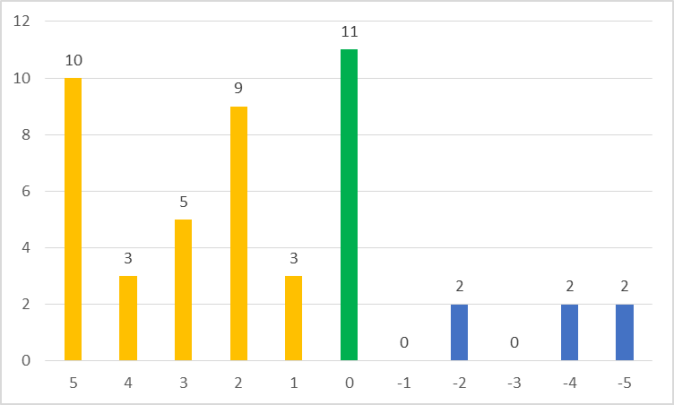
本人の主観と支援者の客観との関係の分析については、双方のデータがある者のみを分析の対象とする。

1）本人が自覚している「意欲」と「自信」

■　意欲「一般就労したいですか？」

したい　　どちらともいえない　　したくない

スコア	5	4	3	2	1	0	-1	-2	-3	-4	-5	有効回答
人数	10	3	5	9	3	11	0	2	0	2	2	47
%	21.3%	6.4%	10.6%	19.1%	6.4%	23.4%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	4.3%	100.0%

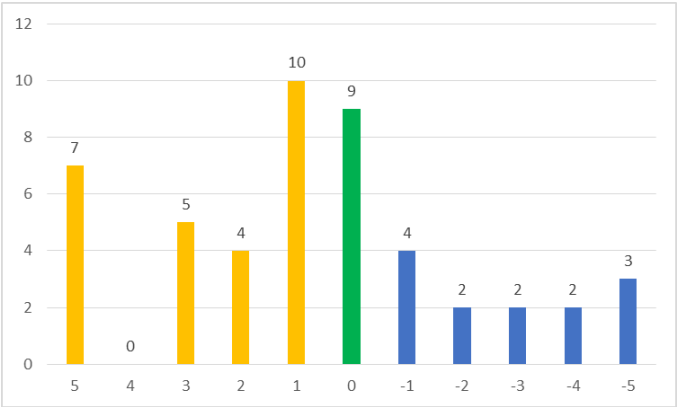


したい　　：30 人（63.8%）
どちらともいえない：11 人（23.4%）
したくない　　：　6 人（12.8%）
有効回答　47 人

■　自信「一般就労する自信がありますか？」

自信がある　　どちらともいえない　　自信がない

スコア	5	4	3	2	1	0	-1	-2	-3	-4	-5	有効回答
人数	7	0	5	4	10	9	4	2	2	2	3	48
%	14.6%	0.0%	10.4%	8.3%	20.8%	18.8%	8.3%	4.2%	4.2%	4.2%	6.3%	100.0%



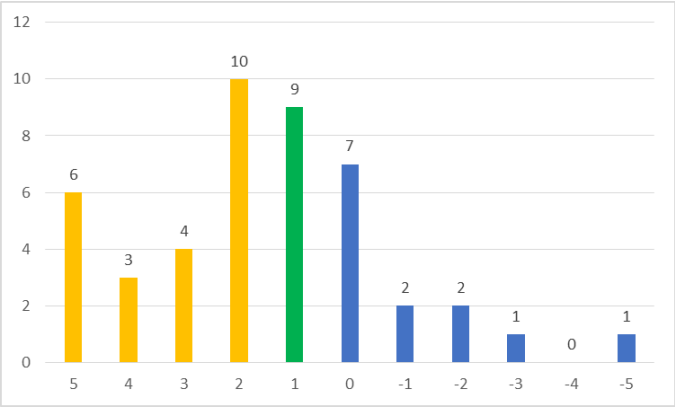
自信がある　　：26 人（54.2%）
どちらともいえない：　9 人（18.8%）
自信がない　　：13 人（27.1%）
有効回答　48 人

２）支援者が認識している「意欲」と「可能性」

■　意欲「一般就労してみたいと思ってそうですか？」

したい　　どちらともいえない　　したくない

スコア	5	4	3	2	1	0	-1	-2	-3	-4	-5	有効回答
人数	6	3	4	10	9	7	2	2	1	0	1	45
%	13.3%	6.7%	8.9%	22.2%	20.0%	15.6%	4.4%	4.4%	2.2%	0.0%	2.2%	100.0%

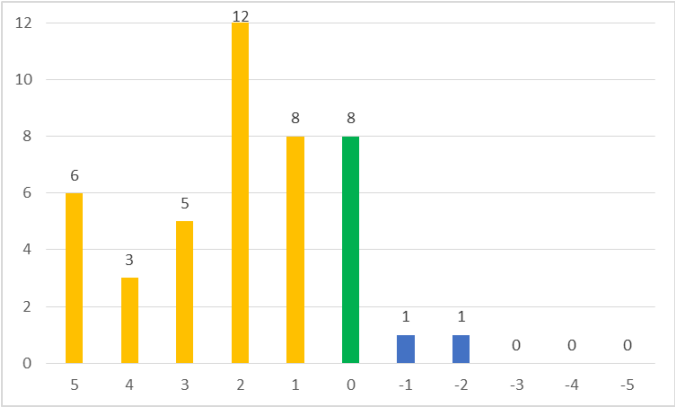


したい　　：23 人（51.1%）
どちらともいえない：　9 人（20.0%）
したくない　　：13 人（28.9%）
有効回答　45 人

■　可能性「一般就労できる可能性はどのくらいだと思いますか？」

可能　　どちらともいえない　　不可能

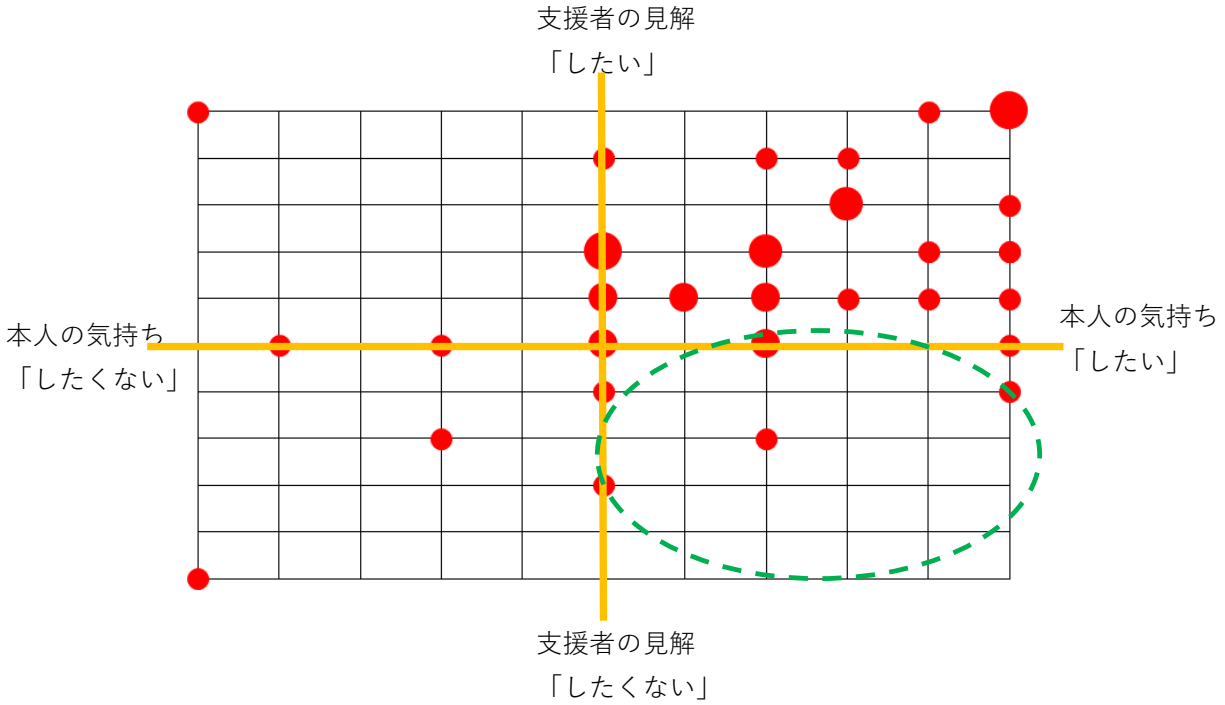
スコア	5	4	3	2	1	0	-1	-2	-3	-4	-5	有効回答
人数	6	3	5	12	8	8	1	1	0	0	0	44
%	13.6%	6.8%	11.4%	27.3%	18.2%	18.2%	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	91.7%



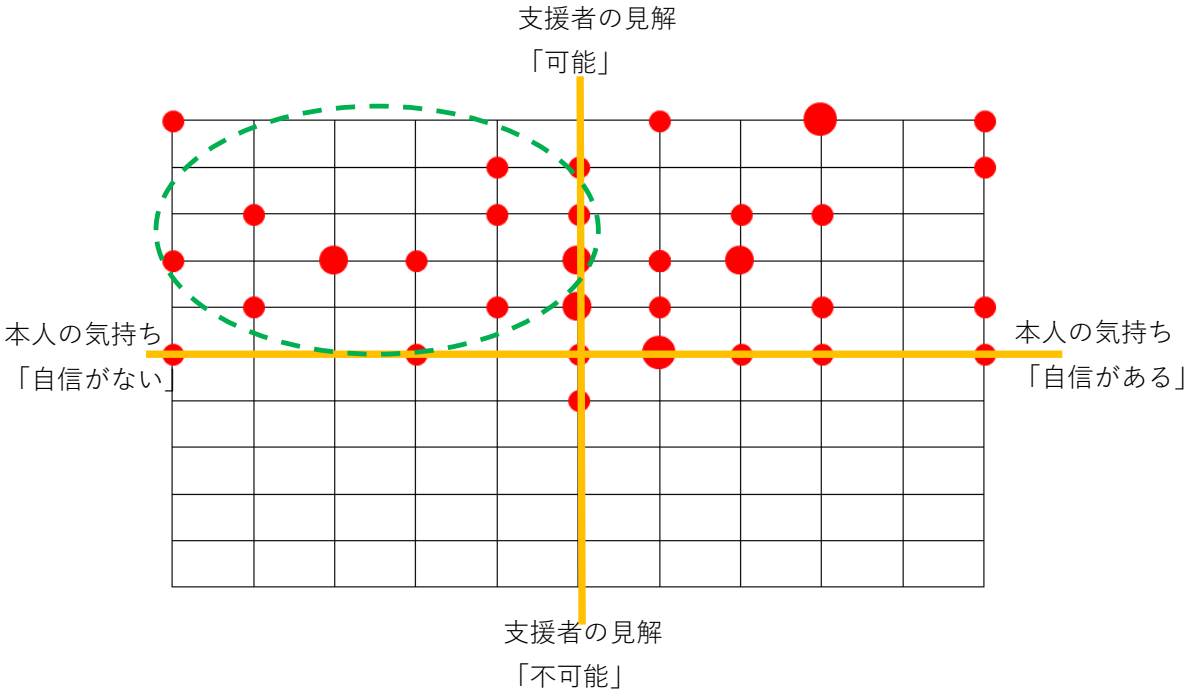
可能　　：34 人（77.3%）
どちらともいえない：　8 人（18.2%）
不可能　　：　2 人（ 4.5%）
有効回答　44 人

３）本人の主観と支援者の客観との関係

① あなたは「一般就労してみたい」とどのくらい思っていますか？
ご本人は「一般就労してみたい」とどのくらい思っていそうですか？



② あなたは「一般就労する自信」がどのくらいありますか？
ご本人が「一般就労できる可能性」はどのくらいだと思いますか？



≪考察≫

まず着目すべきは、本人の「意欲」である。今回の見学・説明会の参加者は就労継続支援Ｂ型事業の利用者であり、一般就労への意欲は必ずしも高くないと思われがちである。しかし、調査結果を見ると、程度の差はあるものの、47 人中 30 人（63.8%）が「したい」と回答している。「したくない」と明確に否定した者は 6 人（12.8%）にとどまる。

次に、本人の「意欲」と「自信」との関係をみると、「意欲」では 47 人中 30 人（63.8%）が肯定的な回答をしているのに対し、「自信」では「自信がある」と肯定的な回答をしている者は 26 人（54.2%）と少なく、「自信がない」という消極的な回答も 13 人（27.1%）いる。

本人の気持ちと支援者の見解との関係に着目したのが、前ページの 2 つの図である。それぞれの図の左上と右下が主観と客観にずれが生じていることになる。上の図で点線で囲った部分は、「本人がしたいと思っているのに、支援者にその意欲が伝わっていない」ことになる。こうしたケースでは、支援者が利用者の意欲をくみ取って支援につなげることが課題になる。

一方、下の図で囲った部分は、支援者は「一般就労できる」と評価しているにもかかわらず、本人が「自信がない」と考えていると解釈できる。こうしたケースでは、本人の自己効力感を高めることが支援上の課題となることを示唆している。

２－３．一般就労への「意欲」と「自信」≪追跡調査≫

効果検証の方法（考え方）

①　本人への調査

調査は、見学会の約 1 か月後、約 3 か月後の 2 回行った。調査方法は、引率した支援員による面談である。意欲、自信とも設問は見学会当日と同様である。ただし、前回からの変化に着目することが目的であったため、前回の本人の回答をあらかじめ示し、そのうえで回答を求めた。

②　支援員への調査

引率した支援員に、支援者から見て、利用者に何らかの変化があったかを質問した。選択肢は「あった」「どちらかといえばあった」「どちらかといえばなかった」「なかった」である。また、「あった」「どちらといえばあった」と回答した者については、その内容について自由記述で回答を求めた。

③　分析の視点

見学会当日からの変化に着目して分析を行った。調査は便宜上、「+5」～「0」～「-5」で回答を求めたが、主観的な数値であるため統計上では有効な尺度とは言えない。むしろ、基点となる見学会当日と比較した変化が重要である。したがって、「ポジティブな変化」「不変」「ネガティブな変化」の 3 分類で整理し、見学会を行ったことで高まった意欲や自信が、事業所の日々の活動のなかでいかに維持されているかを分析した。

１）本人の主観：「意欲」の変化

特に注目したいのが、見学・説明会当日で高まった意欲が、1 か月後あるいは 3 か月後に下がってしまう、つまり事業所の日々の活動のなかで意欲が維持できない者がどの程度いるのかである。結果を見ると、1 か月後で 11 人（22.9%）、3 か月後で 15 人（31.3%）が、「ネガティブな変化」（見学・説明会当日より意欲が下がった）と回答している。

	当日→1か月後		当日→3か月後	
	人	%	人	%
ポジティブな変化	7	14.6%	17	35.4%
不　　変	30	62.5%	16	33.3%
ネガティブな変化	11	22.9%	15	31.3%
有効回答	48	100.0%	48	100.0%

２）本人の主観：「自信」の変化

「意欲」と同様に、1 か月後に 11 人（23.4%）、3 か月後には 17 人（36.2%）が「ネガティブな変化」（見学会当日より自信が下がった）と回答している。

	当日→1か月後		当日→3か月後	
	人	%	人	%
ポジティブな変化	8	17.0%	15	31.9%
不　　変	28	59.6%	15	31.9%
ネガティブな変化	11	23.4%	17	36.2%
有効回答	47	100.0%	47	100.0%

３）支援者からみた利用者の変化

見学・説明会に同伴した支援者に、利用者が見学会を契機に変化が見られたかを、1 か月後、3 か月後それぞれ質問した。結果をみると、1 か月後で 28 人（59.5%）、3 か月後で 27 人（57.4%）が「変化があった」「どちらかといえば変化があった」と回答している。

	1か月後		3か月後	
	人	%	人	%
変化があった	9	19.1%	12	25.5%
どちらかといえば、変化があった	19	40.4%	15	31.9%
どちらかといえば、変化がなかった	14	29.8%	15	31.9%
変化がなかった	5	10.6%	5	10.6%
有効回答	47	100.0%	47	100.0%

あわせて、どのような変化があったかを自由記述で回答を求めた。内容ごとにまとめたのが下表（重複回答あり）である。

支援者から見た変化	人数
一般就労が決定	1
一般就労へ準備中	6
一般就労を検討中	2
一般就労へ自信が持てた	2
就労移行の利用開始	1
就労移行への準備中	8
作業時間が増えた	5
作業意欲が増した	7
変化はない	3
その他	10
未回答	5

「その他」には、「求人広告に関心を持ちはじめた」「企業で働くことへの質問が出るようになった」「他の利用者と話す機会が圧倒的に増えた」といった記述があった。また、見学会や実習に再度行きたいという希望を述べている利用者が多くいることが明らかになった。

≪考察≫

調査結果をみると、見学・説明会直後の「意欲」や「自信」が維持もしくは向上している者が 6～7 割いるが、これは他の要因も関連しているため、見学会の効果であるとは言えない。しかし、ここで着目すべきは、見学・説明会当日よりも「下がっている」者が 3 割超いることである。今回の調査では、見学・説明会前の「意欲」や「自信」を調査することが出来ていないが、２－１の分析では、見学。説明会で「意欲」や「自信」は高まったことが推察される。それが事業所の通常の活動のなかで、維持されていないという課題が明らかになった。